



## 全国初 Ableton 社とのコラボ授業で中学生が楽曲制作 探究学習で楽曲制作ソフトを活用し『音』で自己を表現

探究科を立ち上げ、中高全学年で「探究」に取り組む追手門学院中・高等学校（大阪府茨木市、校長：木内淳詞）は、ドイツの音楽ソフトウェアメーカー Ableton（エイブルトン）社の楽曲制作ソフト

「Live」を初めて導入し、全国の学校では初となる同社とのコラボレーション授業を12月21、22日の探究の時間に開催します。

授業では、中学1年生57人が「身近に拾った音を組み合わせたオリジナル曲」を制作し、発表します。



Ableton「Live」の使い方を学ぶ中1生徒

Ableton は、1999年にベルリンで設立された音楽制作とパフォーマンスのためのツールを開発するメーカーです。製品は世界各国のプロのミュージシャンやサウンドデザイナー、アーティストなどに使われています。

本学は、週2時間の授業をベースに中学1年生から高校3年生までの6年間、体系的に探究学習に取り組んでいます。中学校では、楽しみながら自分自身への感度を高め、自分にしか創造できないことに気づき、自信をつけ、自己肯定感を高めることを目指しています。特に中1では、絵やブロック、写真などを使って『五感』を通して自己の認識を深め、アートも組み合わせながら「感じる力」「自己を表現する力」を養います。

今回の楽曲制作ソフト「Live」の導入で、生徒たちは「音」による表現方法を獲得し、型にはまらない創作活動を通じた、自身の可能性を広げるきっかけを得ることが可能になります。

12月21日と22日に開催する授業では、Ableton社の認定トレーナーを含む3人が講師となります。生徒たちは10月に行われた事前研修で、ソフトやデバイスの操作レクチャーを受け、その後、約2か月にわたり自分が気になる音を収集するなど、準備を進めています。

### 【ポイント】

- 楽曲制作ソフト Ableton 社 Live を初めて導入し、全国で初めて同社とコラボ授業を開催
- 導入により、本学の探究の目的である自己認識を深め、自己を表現する方法を獲得する
- 12月21・22日の授業で、中学1年生が身近に拾った音を組み合わせたオリジナル曲を制作

### 【開催概要】

- 日 時：2021年12月21日(火)、22日(水) 9:00~13:00
- 場 所：追手門学院中・高等学校（〒567-0013 大阪府茨木市太田東芝町1-1）
- 講 師：Ableton 東京支社（鶴田さくら氏、サルディ佐藤 比奈子氏）、岡村綾子氏
- 内 容：中学校1年生57人がソフトを使って身近な音を組み合わせた曲を制作、発表
- 事前研修の様子：探究メディア O-DRIVE <https://www.otemon-jh.ed.jp/o-drive/project/3124/>

この資料の配付先：大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】 追手門学院 広報課 TEL：072-641-9590 谷ノ内・仲西